

月曜是非

無言の取締官

平町の水道盗用者の發覺が既に五十戸近くに及んで居るといふ、更らに調査の進むに従つてより以上の數に達するかも知れない、町當局の調べに依ると是等の盗用者の動機が全く生活難に起因するものであれば同情の餘地あるも、殆んど全部が、水道費の負擔に耐ゆる生活程度の者であり、『貧よりの盗み』に出でたるものに非らずして其情を憎み近く夫々相當に處分する意嚮を持つて居るとの事である。

に巨費を投ずればとて及ぶべくもない、故に料金を納入すると雖も、亂用の行爲は公安を害する不徳義なる點に於いて盗用者と五十歩百歩である、是等の行爲を抑制する爲めに共用計量制度の必要を生ずるに至つたものと思ふ。

て計量器に制せられ、計量器に縛さるゝといふ、器械の前に公徳心涵養の被征服者となる處に、計量制度の妙味があり、且つ此の制度の實現は、人間性の弱點を暴露せる悲しき處産である、青沼町長其他水道當路者が、數次上京して認可促進を圖つた甲斐あつて、既に去る二十一日付認可の指令

にも接したことであるから遠からずして、共用計量の傍らには計量器が据付けられる事であらう。而して嚴然として立つ、此の無言の取締官は、人間の皮肉な對象として、見る人をして微笑禁せざるものあらしむるであらうと思ふ。

郷軍の意氣を見よ

龍虎相撲つ昨日の武術大會

縣下の強武者集ふ

既報帝國在郷軍人分會福島支部の第六回武術大會は昨日午前八時より、磐中道場に於いて開催縣下各郡より參集した六十餘名の選手が健體堂々入場式を舉行、先づ支部長黒岩大佐の開會の辭に次ぎ國歌を合唱し昨年の優勝者郡山分會より、優勝旗の返還あつて直ちに軍刀術は藤井中佐、山口少佐、富澤、山口兩特務曹長、柔劍術は大井川少佐、小野田大尉、駒場中尉各審判の下に火蓋を切り何れも屈強の武者揃へとして龍虎相打つ壯烈な大接戦を演じ

十六点福島十五点、郡山十四点、双葉同、石城、十二点安積、柔劍術は三十三点若松、二十六相馬、同石城同那麻西部、二十五点郡山同伊達、同安積、同河沼二十四点南會津東部、二十三点双葉等であり本日若松市に開かれる武術大會の得点を合して優勝分會を決定する由

- △柔劍術 (第一班) 1若松星健吉 2安積加藤進 3伊達嘉田庄助 4石城林伊平 5郡山柴田久男(第二班) 1若松渡邊義美 2双葉徳田英夫 3那麻西部田村誠 4相馬小澤一郎 5信夫渡邊江藏 △軍刀術 1福島丹治友二 2郡山鈴木博 3双葉猪狩馨 5安積冬室重

平青年訓練の成績

成績良好と賞らる

山崎少將が査閲して

あつた由

神宮庭球

本縣出場者

愈よ來る十月二十七日より一週間明治神宮コートに於

て開催される全縣中等學校及び實業庭球大會に出場する本縣代表は過般行れた豫選會の成績に依り左の如く決定された

- △中等學校 (ダブルス) 平商 磐中 保原中 田村中 (シングル) 平商安島 同木田 磐中川隅 同小川 △實業團 (ダブルス) 石城鈴木田中 同齋藤大石 福島虎岩林 同福田木幡 (シングル) 福島虎岩同 松本

磐中第二位獲得

近縣中等學校水泳競技に

既報警中水泳部では昨日水高プールに於て開催された近縣中等學校水上競技大會に出場したが澁谷春夫君が八百米自由型に一分二十一秒八の大會新記録を出す等コンデーション頗る良く左の戦績に依り總得點四十四點を擧げ出場十一校中第二位を占め綠泳會寄贈のカップを獲得した

- (百米背泳) 5 志賀幸雄 (四百米自由型) 2 澁谷春夫 6 庄司猛夫 (百米自由型) 6 菅野正雄 (二百米平泳) 2 志賀貞介 6 國井靖郎 (八百米自由型) 1 澁谷春夫 4 庄司猛夫 (二百米自由型) 5 佐藤文雄 (百米平泳) 1 志賀貞介 三百米メドレー 4 二百米リレー 4

町是調査

委員を任命

平町では町資源開發調査の爲め町是調査員左記七名を任命した

- 井上茂作 野崎滿藏 萩原義雄 鈴木光吉 馬目雅治 多田井笑次郎 吉田金作

巖谷先生!

川崎小鳥

【十三】

今、先生の筆絶

◇先生は暇あれば、手紙や端書に頻りにペンを走らせる、實に筆マメな方であつた、吾々の如き便りを書く事に筆不精な者は到底學んでも及ばない、當方から一本の便りを差上げる間に先生からは二三本矢繼ぎ早に寄せられて汗顔に耐えぬ場合が屢々あつた。

◇今では是れが先生の絶筆となつて終つたが去月十一日付の先生からの紙には左の如く認められてあ

(前文を略す)さて小生は御聞入りの通り先頃は空前の災厄を而も旅中に体験しましたが奇蹟的の順調に經過良好漸く一昨日無事歸京致しました然し從來の如き活動は一寸もつかしく總て何分處世法上の轉向を要する事となりました即ち是れからは再び出直人たるを要する事になつたのです(後文略す)

◇多分先生は病未だ癒せざる床中に於いて書かれたものらしいが、筆蹟は例に依つて達筆なペンの走り書で、到底再び起てぬ人の書いたものゝ如き弱々しさは微塵もない。

◇先生は此手紙を書かれた間もなく赤十字病院に入院して、最後の手術を受けられたのである、歸京後早々御用務も多く、然も病狀益々悪化の徴ある折柄、病軀を押して書かれた此お手紙を見る時、今は涙なくして讀む事が出来ない。

◇手紙にも見ゆる通り、「出直人」として再び世に貢献しやうとした先生の悲壯な決意も今は無しく、窓邊に落ちる一片の桐の葉に身を寄せ漂然として極樂の國へ旅立たれて終つた、此の悲しさを加へた事に依つて身寄りの少い私の人生は、又寂寥の暗さを増す事であらう、最後に再び先生の辭世の句を口ずさんで一先づ追懷の筆を擱く……

「極樂の乗物やこれ桐一葉」

化粧の最中に落雷

十八娘が感電即死

千五百年を経た神木にも落雷

朝まで燃え続く

石城郡鹿島村大字三澤字薬師下萬治郎孫吉田稻美子(八)さんは去る廿三日午後八時頃の雷雨の際電燈の下で鏡を見て化粧の最中轟然たる雷鳴と共に落雷し電燈線を傳つて感電即死を遂げた又當日夏井村字菅波大國魂神社の神木樹齡千五百年周囲四十尺高さ百尺の老杉にも落雷發火し廿四日朝迄燃え續けて鎮火したと

体育デー

平商の催し

平商業學校では来る十一月三日の体育デーを中心に左の如く校内クラス對抗體育大會を催すと
(四日)野球、庭球、弓道
大會(八日)陸上競技大會
(九日)武道大會

政友最高幹部が 辭表を撤回して

今は部會の緊張を誓ふ

石城政友部會にては去る廿三日午後二時より大村屋旅館に於いて幹部會を開き先般の縣議補欠に敗戦を見た責任を感じて提出した木村部會長及び井上幹事長の辭表處理方に就いて協議せる結果右は部會幹部全部の責任に歸すべき者にて最高幹部のみの責任を問ふべきに非ずとして兩氏を慰留し辭表を撤回して今後の緊張を誓ふ處あり俱樂部建設の速進を申合せて散會した由

秋刀魚二萬本!

江名の盛厚丸が初漁

無電で吉報來

石城郡江名町秋刀魚漁船盛厚丸は昨廿四日朝釜石沖合三百三十哩の海區で秋刀魚二萬本を漁獲し鹽釜に水揚げしたとの無電が同日午後江名漁業組合に入つたと

平第一校で 平第一唱歌會開催 校では来る十一月中旬校内唱歌會を催すが種目は齋唱、獨唱、遊戲、合唱、輪唱等である

バザーの宣傳に ホスターを選む

全校生が投票して

警女では既報の如く来る十月八・九の兩日バザー展覽會を開催するので二年生以上は宣傳ポスターを製作せしめ去る二十二日全校生に成績の投票を行つたが入選者は左の如くこれら入選ポスターはいづれも郡内町内に目抜き場所に掲げる事になつたと
二四七號四年吉田泰子
六一號三年有坂敏子 五
三三號三年長谷川シヅ子
同鈴木ウタ子 四六號四年
年横山良子 同吉田郁子
四二號二年松本美代子

記念碑の附近清掃

古鍛冶青年團の奉仕部 當選した

古鍛冶町青年分團では此程奉仕部を設けたがその第一歩として去る二十二日菅ノ澤開通記念碑附近の清掃作業を行つたと

新川衛生區長

平町第十區新川町では此程衛生區長が任期満了となつたので改選の結果渡邊又吉氏が

明日のラジオ

廿六日

今晩の部
後六〇〇(子供の時間) 唱歌劇「秋の七草」出演 名古屋南久屋小學校生徒
後六二五 英語講座(五) 岡田實鷹
後七三〇 産業ニュース
後八〇〇 謡曲(東京木道橋實生會能樂堂より中継) 藤戸近藤乾三其の他

明日の部

大勢
後九〇〇 琴瑟橋中佐「寺島旭崇」
後九三〇 時報 ニュース 氣象通報 番組豫告

明日の部

寺教學部長 清水全順
前九一〇 料理獻立一體の三杯酢 中村光三
前一〇三〇 家庭講座「非常時と家庭經濟」前田繁一
後一〇五 彼岸會法要(七日) 神奈川縣藤澤町 時宗總本山清淨光寺(遊行寺)より中継 管長 桑畑靜善外
後二〇〇 婦人講座「若き女性に見る喜ばしき傾向とその指導について」福岡やす子
後六〇〇(子供の時間) ラヂオ紙芝居「お伽島」

(第二回) 山野一郎

後六二五 基礎佛語講座(五) 目黒三郎
後七三〇 講演「改正恩給法に就いて」恩給局長 樋貝詮三各局の夕
後八〇〇 琵琶「澤陽江(下)」林盛之助
後八二二 尺八と歌謡曲 尺八三重奏 藤澤鈴昭 他
歌謡曲 唄 琴次 おふじ ビアノ長村登一
後八四四 狂言 一、安來 節 岡田駒千代 二、安來 さわぎ 島根縣安來見番
後九〇五 民謡劇「田澤湖傳説」演出宮城民謡團

は左の如く年令其他職業には制限がないと
百メートル 二百メートル 四百メートル 八百メートル 千五百メートル 一萬メートル 走巾跳 走高跳 三段跳 棒高跳 百十メートルハドル 砲丸投 圓盤投

平商の遠足會 平商業學校では来る二十九日三年生以下関井井嶽、四五年湯ノ岳に夫々遠足運動會を催すと

田村タキ 阿部良枝 齊藤幸子(走巾跳) 田村タキ 山野邊松子(走高跳) 同人(三段跳) 田村タキ

家庭洗濯の講習 平女子青年團及び平婦人會では来る二十七日より三日間町役場會議室で家庭洗濯講習會を開くが講師は折笠雲峰氏で教授科目は左の如くである
(第一日)モスリンの洗方 セルの洗方 洋服のクリーニング 和服のクリーニング 銘仙の洗方及湯通法(第二日)木線の洗方 絹物一般の洗濯法並に仕上 毛布の洗濯 毛糸編物の洗濯 手巾 ボイル線 紺糸 白糸の洗濯(第三日)毛皮のクリーニング 丸帯 刺繡 半襟のクリーニング 白無垢

警女競技選手 警女競技部では来る十月七八の兩日福島市營グラウンドで開催される明治神體育大會及び全日本陸上競技選手權大會南奥羽豫選大會に出場すべく目下係り教練コーチの下に練習中であるが出場選手は左の如く来る十月六日平發午後二時十五分にて永島教諭引卒の下に出發する
(百米) 大平久子 阿部良枝 齊藤幸子 齊藤和子 (二百米) 大平久子

裁判所だより △長野縣松本市生れ目下住居不定無職前科六犯鷹見孝二(三)が石城郡湯本町大字湯本字三國三二二佐波古直元方を襲つた外七ヶ所より現金時計類を窃盗した事件の公判は本日午前十時より平區裁判所に於て香西判事係り三堀檢事立會の下に公判開廷され事實問の上檢事より懲役四年を求刑されたが判決言渡しは明日午前九時である
△石城郡勿來町大字酒井字竹ノ内七十九番地馬車軌道邊六之助(三)は去月二十二日午後二時頃同村字關根甲高長藏方附近道路を泥酔して徘徊警察犯處罰令違反として科料十五圓に日本平區裁判所に於て略式命令を以て處分された



【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴 演
山本英春 畫

第四十八回 血に飢ゆる村正

熊谷堤の大難

さて這入つて来た町人も
武助の顔を見て、世の中に
は似た人もあるものだと思
つて向ふの床几に腰を掛
ける、茶屋の親爺は馴染と
見え

爺「旦那今お歸りでござい
ますか」

町「ア、今歸ります、船は
まだ間があるかえ」

爺「モーちぎでございま
す」

武「町人其方は何處へ參る
のだ」

町「ヘエ私は野州の方へ戻
りますのでございます」

武「左様か拙者は武藝修業
の者で少々野州路の方へ參
らうといふ目的もある、幸
ひの道連れだが同道をして
は參らんか」

云ひながら片眼でジロリ
と町人を見る顔色の物
凄さ、此の商人と申します
のは野州阿蘇郡佐野の犬伏
にて大商人の次郎左衛門と
いふ者でござります、江戸
表よりの戻りで二百兩から
の金を持つて居りますだ
けに氣味が悪く、

殊に武助の様子がどうも
修業者とは見えず事によつ
たら荒仕事でもする者



思ひ違ひ
次「ハ有難う存じますが商
人と申します者は途中寄り
道がございませぬもので御同
道いたす譯にはなりませ
ん」

武「何商人だと」
次「ヘエ絹商人でございま
す」
武「ウム、絹商人といへば

金高の物を始終取扱ふので
道中をする時には二百や三
百の金は始終持つて居る
な」
と何心なく云つたのだが
云はれた次郎左衛門は吃驚
して扱は乃公の懐に二百兩
ある事を知つて居ると思ふ
と尙更足もすくむばかり
次「どう致しましてそんな
大した商人ではございませ
んホンの絹商人といふ名前
ばかりでございませぬ」
武「アハ、何か心得違ひ
でもして居るな、其方の懐

中に千兩あつても別段夫を
目的に致す拙者ではない、
心配をいたすな」
次「ヘエ心はいたしたませ

んが」
と小鬚先へ溜る汗を拭て
て居る中に船が出るといふ
事故
次「旦那様御先へ」
とソコソコに茶見世を出
て船へ來りますと武助も跡
から這入つて來て次郎左衛
門のそばに腰を掛けながら
扮装形をジロリ見るので
愈々次郎左衛門は肝を冷し
碌に話も致しません其の中
船が岸に着く、船賃を拂つ
て岸へ上ると、其儘次郎左
衛門はスタスタスタと駈
るやうにして參ります、
跡から武助は押揃づらに態
と從いて行くので、次郎左
衛門は是は大變だ、ゴマの
灰に附けられたと思つて、
急ぐほど尙足がのろくなり
ます、浦和の宿まで來る
と再び傍へ參りまして
武「町人、そんなに急ぐ
な、思がられるとツイ一緒
に歩きたくなる」
次「イヤ思がるのではござ
いませぬどうぞ御勘辨なす
つて下さい」
と又駈出しました、武助
は跡から徐に歩行く様でも
自体足の早い人を見て直
に追附きます、次郎左衛門
は駕籠へでも乗れば宜いが
流石に金を溜る人だ、駕籠
へも乗らず休みもせず急い
で來ましたが、又大宮で出
遇ひました
武「コレ町人然んなに嫌ふ
ものではない是非一緒に行
くよ」
といわれ
次「私は此宿に取引がござ
いますから眞平御免なすつ

て下さい」
と勝手覺えた大宮の宿裏
道へ這入り込み近道をした
り抜道をしたりして二三丁
まわり振り返つて見ると侍
の影も見えないシテやつた
りと次郎左衛門其儘急いで
參りました、所も丁度熊谷
の地藏、松の蔭から二三
人ゾロゾロと立出で
〇「船橋の御大盡御待申て
居りました」
といふ聲に又吃驚の次郎
左衛門振り返つて見ると是
は佐野の犬伏や船橋邊りで
厄病神のやうに申して居り
ます博奕メツバの勘五郎、
腹太の多七何方も乾兒を一
人づつ連れ足指へを確かり
となし、長脇差を差して出
ました、が餘り氣味の宜いも
のではございませぬ
次「是は勘五郎親分に多七
親分お前さん方は何處へお
いでなされるのでございま
す」
多「旦那實は昨夜お前さん
のお宅へ參つてお願ひ申さ
うと上つた處が留守だとい
ふ事を清助から聞きました
に就いてお歸りを途中まで
御出迎ひに出ました」
勘「旦那誠に濟みませんが
實は今度佐渡金山が崩れて
其の事に就き私共のやうに
遊んで居るものは残らず拾
ひ上になつたので、事ドカ
四五年は國を賣ると思つて
支度はしたやうなもの、何
處へ行くにも先立つものは
金でございませぬ夫れで實は
多七と二人で旦那に助けて
お貰ひ申さうと思つて何つ
か、でございませぬ」

旭硝子株式會社製品
赤菱印
板ガラス
菓子壘
菓子食器
其他各種
松崎硝子製作所
平町新川町(電話一四二番)
仙臺市榮町(電話五九七番)
支工場

秋!
爽かな秋の旅を不二の車で
日光鬼怒温泉附近案内一部差上げます
不二タクシー
電32番

親切確實は
正木織物店ノ生命也
絹織物、正木織物店へ
開業三十五週年を祝するため
二割引にて大々的勉強御註文
に應ず
御註文ノ時ハ(呼出六七四番)へ店員伺ヒマス
平町字新町貳十貳番(公園下)
白生地 貨織販賣
正木織物店

外科
門專
科線光X
上田外科醫院
平町南町
電話一二九番